海峡の英知。未来へ　そして世界へ。

公立大学法人
下関市立大学
Shimonoseki City University
2020年12月1日　第92号
発行：下関市立大学広報委員会
〒751-8510 下関市大学町2-1-1
TEL. 083-252-0288
FAX. 083-252-8099
https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/

下関市立大学News&Topics

対面授業一部再開について

教授（教務委員会委員長）　**関野　秀明**

2020年度秋学期、本学は、教室における対面授業を一部再開致しました。感染症リスク抑制と教室での共同の学びの両立は簡単ではありません。しかし、理事長・学長の判断と現場教職員の準備、学生の協力と保護者のご理解により、対面授業一部再開が始まっています。

2020年8月12日、「第8回危機対策本部会議」は、「授業開講の基本的な考え方」を「100%遠隔授業、感染症リスク最小化（100%）」から「対面授業一部再開、感染症リスク抑制（90%）＋学生の『コロナうつ』リスク抑制（10%）」に移行することを決定しました。この方針転換は、6月25～30日に教務委員会が学生に対して行った「遠隔授業に関するアンケート調査」結果に基づくものでした。教務委員会は「一緒に受講する友達もなく1人で受講すると気持ち的にもダウンする」「やはり直接の方がいい。特に少人数教育は。オンラインでは真価を発揮できない」といったアンケート結果を重く受け止めました。特に入学後、一度も教室に来ていない1年生全員が少人数グループで受講する「基礎演習」を対面授業再開のモデル・ケースとすることを計画しました。

8月27日、教務委員会は「第1回拡大教務委員会」を開催し、経済学部全教員に対して「基礎演習対面実施」の方針を説明しました。「基礎演習35クラスは全て専任教員担当でありリスク管理しやすいこと」「1クラス13～15名に対し約40～200名収用の教室を使うこと」「基礎疾患など対面授業参加が困難な学生のために、教室から会議室アプリZoomによる同時中継、自宅受講も可能とすること」などを全体で確認しました。しかし、現場教職員から、より詳細で具体的な安全対策の策定と徹底が求められました。

9月17日、教務委員会は「第5回経済学部教授会」に対し、「秋学期対面授業再開のガイドライン」を提案、承認を得て、実施準備を本格化させました。「ガイドライン」は、講義棟トイレ、階段等共用部分の専門業者による定期消毒体制の構築、教員と学生が協力した教室内の徹底消毒、教室内での社会的距離、換気、マスク・フェイスシールド着用のルール化、教員、学生共に「健康観察カード」記入・チェックの義務化、少しでも体調不安のある学生の遠隔授業への参加誘導、入構時のサーモグラフィー・チェックなどを詳細に定めました。また現場の教員は、教室内で安全に消毒や換気を必ず実施し、学生の健康管理をチェックできるよう「対面授業実施チェックリスト」も使用しています。

10月23日現在、本学は新たな感染者もなく順調に対面授業一部再開を継続しています。今後の課題は、1年生必修科目「スポーツ実践」を含む、より大規模な授業の対面再開です。この課題克服のカギは「対面授業再開」と同時に必ず「バックアップとしての遠隔授業」を準備することです。感染症の状況が改善しても、基礎疾患のある学生などが安全に学ぶ遠隔授業は必要です。また感染症の状況が今後悪化すると、学期途中でも再び「対面中止、完全な遠隔授業実施」が必要になります。本学は、全ての授業を「対面＋同時中継型遠隔」授業として行う通信設備と、「スポーツ実践」のような複数の教員が共同実施する実習授業の「オンライン教材開発」、この2つへの投資を必要としています。

就職支援

本学の就職状況･就職支援体制について

教授 **松本　義之**
（キャリア委員会委員長）

今年の3月末に卒業した本学学生の就職決定率は99.1%となりました。高い就職決定率は、昨年度卒業した学生が就職活動を頑張った成果だと思います。就職先として最も多いのは金融･保険業で、全体の約2割強を占めています。

現在コロナウイルス感染拡大の影響で学生の就職活動に大きな影響が出ています。就職活動に苦慮している学生の要望に応えるために、本学キャリアセンターでは、オンライン･対面のどちらでも対応できるキャリアサポート体制を整えています。就職相談･模擬面接などは対面による対応に加えてZoom等によるオンラインでの対応も行っています。大人数が集まる可能性がある各種ガイダンスなどは、オンラインを中心に開催しています。また、キャリア教育についても、キャリアデザイン･インターンシップ･PBLなど、対面･オンラインの両方を含めたカリキュラムとなっています。

受験生の皆さんが就職活動を行う頃は、コロナウイルスの影響もあり、就職活動のやり方が大きく変わる可能性があります。就活のやり方が変化した場合でも、本学キャリアセンターでは企業で活躍できるバランスのとれた人材を輩出できるよう、学生の支援を行っていきたいと思います。

西日本旅客鉄道株式会社に内定

国際商学科　4年 **吉村　唯**
（岐阜県立中津高等学校出身）

就職活動を終え、自身のためにして良かったと感じたことは、さまざまな企業のインターンシップや説明会に参加し、多くの社会人の方々と交流したことです。鉄道業界が第一志望でしたが、第二志望業界を見つけるため、また、初対面の方と話すことに慣れるために数十社に足を運びました。多くの企業を知ったことで、なぜ鉄道業界が第一志望であるのか、志望理由を明確にすることもできました。エントリーシートや面接にも力を入れましたが、感染症の影響で採用活動が縮小するなか内定をいただけたのは、インターンシップや説明会で前もって熱意を伝えていたことが大きかったと感じています。

就職活動は辛いことが多いと思いますが「こんな仕事もあるのか」といった面白い発見もたくさんあります。何を聞いても許される就職活動は最初で最後だと思って積極的に活動してみてください。自分ができることをすべて出し切ればどんな企業でも可能性は十分にあると思います。

長崎県庁に内定

経済学科　4年 **馬場　祐弥**
（長崎県立島原高等学校出身）

私が就職活動を通じて感じたのは、同じ目標に向かってともに励む仲間の大切さです。

私は大学入学当初から、将来は地元長崎県に戻り公務員として長崎の発展に貢献したいと強く思っていました。しかし、公務員試験に合格するためには、1年ほどの長い期間勉強を続ける必要があり、途中で諦めそうになることがありました。そのようなときに、仲間がいたからこそ、途中で諦めず、互いに高めあうことで、最後まで試験勉強に取り組むことができたと思います。

また、公務員試験では筆記試験だけでなく、面接試験の重要性も高まっています。よって、大学生活を通して、学業やアルバイト、サークル活動といった自分の強みとなる経験をすることも重要だと思います。

最後に、就職活動で悩んだ際には思い切ってリフレッシュすることも大切だと思います。公務員試験は民間就活に比べて長期戦となります。自分のペースで合格に向けて頑張ってください。

日本政策金融公庫に内定

公共マネジメント学科　4年 **坂本　笙花**
（福山市立福山高等学校出身）

私が就職活動を始めたのは、3年生の冬からでした。当時は将来の夢も軸も全くありませんでしたが、説明会やインターンシップに参加する中でおのずと行きたい企業が見つかりました。

何社か面接を受けさせていただいた中で、企業は大学名や成績よりも、個人の性格や、学生時代に何をし、そこから何を学び、業務でどう活かせるのかを把握し、説明できる人材を欲しがっているように感じました。就活サイトを参考にしつつ、オリジナリティを加えて自分の言葉で話した事が、内定をいただけた理由だと思っています。

就職活動は情報収集と対策が大切です。面接を苦手とする方も多いと思いますが、キャリアセンターに通い、数をこなすごとに形になっていきます。

コロナウイルスのこともあり、就活生の皆さんは多くの不安を抱えていると思います。このような時だからこそ、自己分析やＳＰＩ対策等を始めてみるのもいいのではないでしょうか。

体調に気をつけ、時には息抜きもしながら頑張ってください。

就職支援

2020年度インターンシップの報告

教授 菅 正史
（キャリア委員会副委員長）

本学では、キャリア教育の一環として、授業科目（単位認定）型のインターンシップを実施しています。本年度は、新型コロナウイルスの影響により、一時は国内のインターンシップについても開催が危ぶまれましたが、無事に16の企業・団体に、28人を派遣することができました。中には、プログラムを大幅に変更しながら、学生を受け入れていただいた企業・団体もありました。

残念ながら、海外に学生を派遣する国際インターンシップは、本年度は中止せざるを得ませんでした。新たな試みとして、関係企業・団体のご協力によって、海外で活躍されている方々と学生とがZoomで交流する機会を設けることができました。

困難な状況の中、本学学生に貴重な機会をご提供いただきました関係者の皆様方に、この場を借りてあらためてお礼申し上げます。これからもインターンシップをはじめ、本学の教育・研究活動にご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

下関市観光スポーツ文化部でのインターンシップ

経済学科 2年 藤永 優依
（山口県立下関南高等学校出身）

私は、夏季の長期休業中に下関市観光スポーツ文化部のインターンシップに参加させていただきました。このインターンシップに参加した理由は、将来の就職に地方公務員を視野に入れているからです。研修を通して職場の雰囲気は勿論、公務員という業種のやりがいや大変さ、社会で求められている人材などを学べると思い参加しました。

主に政策立案やSNS投稿に関する研修を行いました。その中で、普段何気なく利用している施設や観光地には多くの方が携わっており様々な思いの下、下関市の将来を見据えて業務されていることを知りました。そして、私たちの生活は多くの場面で行政に支えられていることを知りました。

今回の研修を通して、柔軟な発想や幅広い視野と知識、新しいことへ挑戦し続ける向上心が公務員として、さらには社会人として求められているのではないかと感じました。今後の大学生活では、これまでよりもさらに積極的に勉学や団体活動に取り組み、社会人としての基盤をつくっていきたいです。

リモートインターンシップに参加して

公共マネジメント学科 2年 沖田 圭矢
（広島県立廿日市高等学校出身）

夏季の長期休業中に5日間のリモートインターンシップのプログラムに参加しました。このインターンシップに参加した理由は、オンライン上での実施によって普段は関わることのできない全国の企業の方や学生の方と交流することができ、これからの進路を考えていくうえでとても参考になると思ったからです。実際に、自分が考えたことのなかったIT企業のリモートインターンシップに他大学の学生さんと参加させていただきました。

その体験では、実際にその企業が手掛けている動画作成のノウハウを教えていただき、最終的に簡単なものではありますが、動画を編集、作成の作業ができるようになりました。また、Zoomやメールなどのやり取りを通じてリモートワークの雰囲気を体感できました。この機会を通して、自分は公務員志望ではありますが、時代の変化に柔軟に対応できるように進路を一つに絞ることはしないで、幅広い視野をもって今後の就職活動に取り組んでいこうと思いました。

シンガポール交流会に参加して

国際商学科 3年 米田 衣里
（広島大学附属高等学校出身）

私が今回シンガポール交流会に参加した理由は、海外で働くことに魅力を感じ、将来的にグローバルに活躍できる人材となることを目指しているためです。例年夏休みに募集のある海外インターンシップでシンガポールに行きたいと考えていましたが、今年はコロナ禍により、オンラインで企業の方からお話を伺う機会をいただきました。

交流会では、海外で働くやりがいと難しさだけでなく、日本にいては知ることのできない文化の違いなどを教えていただき、特に日本との住環境の違いが印象的でした。また画面越しではありますが、アジア有数の経済都市で働く企業の方々のお話を聞き、日本とは違う勢いや熱量を感じ、ますます海外勤務への意欲が増したと感じています。

今年度は実際に自分の目で見て体験することはできませんでしたが、現地で働く方々から普段聞けないような貴重なお話を伺うことができました。この経験を、今後の就職活動にも活かしていきたいと考えています。

国際交流

カナダ派遣留学／海外インターンシップ

国際商学科　4年　蕨岡　明日香
（福岡県立八幡高等学校出身）

5か月間、カナダのスー・セント・マリーという小さな町で留学をしました。1年生の時、1か月間のオーストラリアでの語学研修の後、もっと長期間で自分の語学力を向上させたいと思い、挑戦しました。日本国内でも英語の勉強は可能ですが、生の英語を自分の肌で体験できたことは非常に良い刺激になりました。1学期間ESLで勉強し、その後に海外インターンシップにも参加しました。期間も短く、業務は単純でしたが、現地で働く日本人、日本での労働経験のあるカナダ人と「働くこと」についてたくさん語り合いました。それは帰国後の就職活動にも活かすことができ、新しく夢を持つこともできました。カナダで暮らしていた時の周りの人は、常にまっすぐで温かく、たくさんの愛を持っていました。今でも頻繁に連絡を取り合っているので、いつか必ず会いに行きます。

もし、後輩で留学を迷っている方がこれを見ていれば、「今しかできないこと」の一つだと思うので、ぜひチャレンジして欲しいです。

アメリカ留学生活での挑戦と成長

国際商学科　4年　山下　沙野香
（愛知県立西尾東高等学校出身）

約10か月間、アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるディアブロ・バレー・カレッジへ留学しました。このディアブロ・バレー・カレッジは名門校への編入実績が高く、サークル活動も盛んに行われています。勉強もサークルも両立して頑張れるのではないかと思い、この大学に行くことを決意しました。

留学中は、積極的に様々なコミュニティに参加することを心掛けました。留学生のサポート、交流会やボランティアを企画するサークルに入ったり、持っている米国籍を活かして日本食レストランでアルバイトにもトライしたりなど、実践的な英語が話せる環境に身を置くように努めていました。おかげで、留学が終わったあとは、精神的にも強くなれたと思います。

慣れない言語で生活を送るので、始めは様々な失敗もありましたが、失敗から学ぶことのほうが多く、新しいことに挑戦する楽しさや様々な価値観や文化に触れることの楽しさを感じることができ、とても良い経験になりました。

オーストラリア留学での経験

国際商学科　3年　池田　智哉
（宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校出身）

2020年の3月から9月までオーストラリアのブリスベンにあるグリフィス大学附属英語学校に行かせていただきました。3月の中旬に到着し、その後2週間はキャンパスでの対面授業に参加し、すぐに友人を作ることができました。しかし、その直後に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、仲良くなった全員が帰国してしまい、知り合いがいなくなりました。「今後上手くやっていけるのか」と不安を感じ、その時に自分も帰国するという選択肢もありましたが、留学を開始したばかりだったので残ることにしました。今振り返ると、良い決断だったと感じています。6月ごろまでは、外出も必要以上には出来なかったため、やりきれなさがありましたが、その後は対面授業が再開され、新たに友人ができて楽しい時間を過ごすことができました。友人との会話も少しずつ出来るようになり、貴重な経験ができることの充実感がありました。自分一人だけでは達成できなかった留学に関わってくださった方々にとても感謝しています。この経験を糧にして、今後も何ごとにも挑戦していけたらと思います。サポート等していただき、本当にありがとうございました。

一期一会

国際商学科　4年　立花　健
（サビエル高等学校出身）

ワーキングホリデービザを使って2年間オーストラリアに滞在しました。オーストラリアでは4つの町にそれぞれ半年ずつ滞在しました。キッチンや学校のような様々な職場、シェアハウスやバックパッカーズなどに住むといったことから、ここでは語り切れないほどたくさんの心に残る経験をしました。

また、日本との違いを感じた場面もあります。日本には上下関係を尊重する文化があります。しかしオーストラリアは皆がまさに平等だなと思いました。私が働いた職場では、立場に関係なく一人一人の意見、アイデアが大事にされて一体感が生まれていました。新年のカウントダウンは、レストランのスタッフ全員とお客さんでシャンパンを片手に祝った経験は心に残る思い出の一つです。

2年間を通してたくさんの人々に出会えました。オーストラリアの温暖な気候の下、No worriesな穏やかな人々と過ごし、笑顔が増えました。また、いつか世界のどこかで出会えるようにこれからも精進していきます。

国際交流

引きこもる留学生活

特別聴講学生 アルバイ トゥンチュ
（トルコ・ボアジチ大学から派遣）

日本語の勉強を始めたとき通常ではできない留学生活を経験したいと思っていましたが、こんなに特別になるとは思っていませんでした。来日した後、遠隔授業が始まるまでの1か月間に町を歩く時間が十分ありました。1回だけですが近所に観光のために外出できました。

確かに、来たばかりの頃は観光のチャンスがありませんでしたが、つまらないとは思いませんでした。いろいろな人とオンラインで会って、日本のことをいっぱい勉強しました。これまで日本に留学した先輩たちとは異なる留学生活を送って「かわいそう」だと思われるかもしれませんが、内向的な性格だと自負している自分にとっては、そんなに悪くなかったです。1か月間の夏休みには九州と四国の観光に行って、いろいろな歴史的な城、庭園、博物館を訪問しました。都会の東京、京都、大阪などに行きたいと思っていましたけど、代わりに日本の田舎や自然を体験するチャンスをいただきました。

この唯一無二な留学がとても素晴らしくて、いっぱい楽しんでいます。特にこのような時期に安全安心な下関に来られて、本当に良かったです。残る4か月も充実した留学生活になるように楽しみます。

日本の伝統的なおもてなしは何が特別なのか?

特別聴講学生 フィゲイレド タニア
（ドイツ・ルートヴィヒスハーフェン経済大学から派遣）

10月27日、日本文化の神髄を知る目的のZoomイベントに招待されました。そこでは下関で創業78年目の「割烹旅館寿美礼」の経営者である和田健資氏がお話ししてくださいました。もっと日本文化を知ったり、理解したいと思っていたので、このイベントは私にとって重要で興味深いものでした。

和田氏は、旅館とホテルのサービスには違いがあることを説明し、最近のビジネスホテルのサービスについて話されました。ビジネスホテルでは、お客様が入ってきて、チェックインして、話して、食事をします。すべてが少し落ち着きなく騒々しいです。

「日本の伝統的な『おもてなし』は何が特別だと思いますか?」という質問があり、みんなで考えました。最近では「サービス」という言葉を使うとき、お客様が何を要求しているか、直接聞くことを考えます。しかし、伝統的なサービス「おもてなし」とは、お客様が何を必要としているのかを感じることです。お客様の要望に耳を傾けることが大切です。

和田氏のイベントでのメッセージを理解できました。和田氏も仕事や職場が大好きなようです。来春、日本に行ったら下関の「割烹旅館寿美礼」を訪れるのを楽しみにしています。

留学生による母国からのZoom座談会

経済学科 3年 毛 子奇（中国 上海市出身）
国際商学科 3年 頼 薇恩（マレーシア ペナン州出身）
国際商学科 1年 曹 孝政（韓国 金海市出身）

新型コロナウイルス感染症の影響で日本に入国できなかった留学生の皆さんにZoomで話を聞きました。

――まず経緯を

頼：3月下旬に日本に戻る予定でしたが、急にマレーシアの国民全員が国外に出られなくなりました。

曹：韓国ではビザ発給が中断されました。春学期は遠隔講義になったので、韓国から授業を受けています。

毛：最初はひどく、これからどうなるかと心配で、毎日、新聞を見て状況を確認していました。今は交通機関を利用するときだけマスクが必要で、普段はしなくても良くなりました。

頼：マレーシアは、当初、家から出られない状態で、買い物も外出は家族で1人だけ。車でも同じ。マスクをつけないと日本円で2万5千円くらいの罰金がありました。それが少しずつ緩くなって、人数制限は無くなりましたが、レストランは、まだ、テーブル1つにつき1人など制限があります。

曹：韓国では3月と8月にひどくなって、5人以上の集まりやコンサートなども禁止されていましたが、今は大丈夫です。日本には段階的に行けるようになりましたが、入国の際の隔離やアパートのこともあり、今学期はまだほとんどが遠隔授業なので、日本へは次の学期から行こうと思っています。

毛：私も、中国からは飛行機代がまだ20万円くらいで高い上に、入国時に2週間隔離されるので、もう少し待つつもりです。

――今回の件で、良かったことや悪かったことを

頼：日本の留学生活が長かったので、長時間家族と一緒にいられたことは良かったです。悪かったことは、3年生なので就職が不安です。

曹：良いことは、韓国の家から安全で楽に授業を受けられることと、試験が少し簡単だったことです。悪いのは、期待していた留学生活とは違って交流ができないことや授業をおろそかにしやすいことです。

毛：良かったことは特にありません。（日本の）家賃をずっと払っているので、それが悪いこと。

――まだ日本に住んだことのない曹さんにアドバイスを

頼：食べ慣れた地元のインスタントヌードルなどを持って来た方が良いですよ。日本でも買えるけどちょっと高いので。

毛：韓国ならキムチ。

頼：日本のキムチは「激辛」ってなってても辛くないんです。

――毛さんは何か中国から持って来ましたか？

毛：調味料をたくさん持ってきました。日本だと、手に入らないので。

――大学に通えるようになったら何をしたいですか？

曹：サークルに入ったり、大学生活を通じて学生と交流して、多様な日本文化を経験したいです。

毛：日本のコロナが収束したら、休みを利用して日本各地を旅行したいと思います。

頼：やはり就職活動です。インテリア関係の仕事をしたいです。

――将来はマレーシアに戻るんですか？

頼：私は寒い方が好きなので、常夏のマレーシアより日本の方が良いです。

下関市立大学News&Topics

地域との繋がりを大切にしたボランティア活動

国際商学科　3年 **清水　智也**
（福井県立高志高等学校出身）

私が代表を務めるＭＩＮＫＥＮというサークルは、普段から地域の方々とボランティア活動をしています。その中で地域の皆様から、コロナウイルスの流行という異常事態において、移動を制限され収入が激減した大学生の現状を心配していただきました。正確に情報を伝えようと思い、市大生の現状を知るべく200人近くにアンケートを行い多くの助けて欲しいという声を聞きました。そして、現状を伝えると赤い羽根共同募金会の支援のもと市大生への食糧支援という活動を一緒に行っていただけることになりました。この食糧支援をきっかけに地域の皆様から、他にも支援をということで募金活動まで行なっていただけました。普段から生活している地域の学生への優しい想いから、100万円を超える寄付をいただく事ができました。

今後も地域との繋がりを大切に、恩返しができるよう下関の街をよくすることができるボランティア活動を続けていきたいです。最後になりましたが、この活動に携わっていただいた地域の方々をはじめ、寄付をいただいた皆様本当にありがとうございました。

コロナ禍における部活動再開へ向けた取り組み

体育会会長　経済学科　4年 **中村　公一朗**
（鹿児島県立鹿屋高等学校出身）

新型コロナウイルス感染症にまつわる影響は、我々体育会にも、部活動の無期限禁止という深い影を落としていました。

5､6月頃からは、経済界と並んで各種スポーツ界も再開へと踏み出し、各統括団体によるガイドラインに則っての活動は解禁の流れとなりました。

当時、下関市でも一定期間新規感染者が確認されておらず、感染拡大防止策並びに感染経路追跡策の考案･徹底した実行により、クラスター発生リスクは極限まで下げられるという考え、なにより各部活動の有志による熱意ある訴えに突き動かされ、私は大学へ部活動再開に向けた取り組みを始めました。

各部活に感染症拡大防止･経路追跡策や他大学の動向をまとめた資料の作成を依頼、それを編集し体育会全体の「嘆願書」として大学へ提出し交渉を行いました。この嘆願書は132ページに及び、大学の一部関係者の方々には我々の想いや活動再開が可能であるエビデンスを理解していただくことの一助となりました。しかし、残念ながら最終的には目標としていた期間に部活動再開を達成することはできませんでした。

10月中旬より屋外の部活動の練習のみ再開するとの報を受けましたが、正直なところ、遅きに失した感は否めません。ですがこれを糸口とし、屋内の部活動や対外試合も含めた完全再開へ向けて、感染症対策と平行しながら今後とも粘り強く行動していきます。下関市立大学体育会へのご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

馬関祭中止～コロナ禍での現実～

第59回大学祭実行委員長　経済学科　3年 **杉　亮賢**
（下関商業高等学校出身）

新型コロナウイルスの影響から第59回馬関祭は中止となり、本当に悔しい思いです。

第59代大学祭実行委員会では「NEW ROAD 市大五輪」をスローガンに掲げ、内輪だけで楽しむのではなく、地域の皆様や協賛頂いた企業様などに感謝の気持ちを込め、地域貢献できるような新しいタイプのイベントにしたいと考えていました。また、オリンピックが予定されていたことから、地域のサッカーチームによるサッカー教室などスポーツイベントを企画したことも、このスローガンに繋がりました。

しかし、コロナ禍で外部の方を招くことが現実的でなく、開催に向けて不透明なことが多くあったため、中止せざるを得なくなりました。

現在は、1年生に対してオンラインで説明会や交流会を行い、また、個人でボランティアやイベントに参加している部員もおり、各個人が出来る範囲で活動しています。

来年も正直コロナウイルスの影響が無いとは言い切れませんが、来年度の大学祭実行委員には、それをチャンスに変えて新しい大学祭の形を創り出して欲しいと願っています。

ご協力を頂いております地域の皆様、協賛して下さった企業様、イベントやボランティアでお世話になっております皆様、今年の経験を次の代へと引き継ぎ、より良い大学祭実行委員会にしていきますので、ご指導ご協力お願い致します。

異例のスタート

経済学科　1年 **本田　優紀**
（浪速高等学校出身）

家族や母校の先生、色々な人たちに支えられて大学に入学することができました。そのことに感謝し、これからの楽しい大学生活を送っていこうと期待を寄せて、下関に来ました。しかし、コロナウイルスによる世界的な感染症拡大は、華々しい大学生のスタートを妨げました。大学生活の門出となる入学式は中止となり、春学期の授業は全てオンラインになりました。オンラインの授業では、パソコンの画面越しでしか同級生の顔を確認できないため、友達に関しての不安が多く募っていました。

しかし、オンライン授業は悪い点だけでなく良い点もありました。それは場所に縛られずに授業を受けられることです。コロナの影響で色々なことが制限されていた春学期は、実家で授業を受けていました。実家にいたので孤独を感じることがなく授業に集中出来ました。さらに、動画を何回も見返すことができるので、理解を深められるところもオンラインの良いところだと思います。

秋学期になり、初めて大学で授業を受けました。オンライン上では分からないみんなの表情などを感じられて、非常に嬉しく思いました。これからの感染状況がどうなるか分かりませんが、1日でも早く元の日常に戻り、楽しい大学生活を送れるようになって欲しいです。

新任紹介

長期的な視野で「キャリア」を捉えよう

特任教員 石川 朝子
（教育社会学）

2020年9月より着任いたしました石川朝子と申します。本学では、キャリア科目を担当します。

専門は教育社会学です。研究テーマは主に2つあります。ひとつは、日本にある中華学校の研究を続けてきました。特に華僑華人三世以降の教育経験とアイデンティティ形成に関する調査を続けています。また、今年度から科学研究費助成を受けて、中華学校の社会化機能に関する研究をスタートさせました。ふたつめは、外国につながる子どもの教育に関する研究です。現在は関連して、学校システムにおける排除と包摂に関わる研究を行っています。2つのテーマとも、日本社会におけるエスニック・マイノリティのキャリア形成と関わる課題であると考えています。

担当するキャリアデザインの授業では、できるだけワークシートなどを用いて、大学卒業後の自らのキャリアについて考えられるようにしています。「キャリア」と聞くと、「大学卒業後の自らの就職」というイメージを持つことが多いかもしれませんが、「キャリア」とは一生涯続いていく長期的な営みのことを指します。下関市立大学で学ぶ意義を意味づけ、次のキャリアへと繋いでいくために授業を活用してもらえると嬉しいです。

入試スケジュール

【外国人留学生・渡日生特別選抜】

出願期間	2020年11月26日(木)～12月4日(金)
試験日	2020年12月19日(土)
合格発表	2021年1月22日(金)

【一般選抜（前期日程）】

出願期間	2021年1月25日(月)～2月5日(金)
試験日	2021年2月25日(木)
合格発表	2021年3月6日(土)

【一般選抜（公立大学中期日程）】

出願期間	2021年1月25日(月)～2月5日(金)
試験日	2021年3月8日(月)
合格発表	2021年3月21日(日)

【出願について】

2021年度入試から、すべての選抜においてインターネット出願を導入します。従来の紙での出願受付は行いません。

大学院新領域・教育経済学領域

副学長（大学院担当） 韓 昌完

本学大学院では、<教育学×経済学>の学際的学問分野である『教育経済学領域』が、2021年4月に入学者10名(予定)を迎え始動します。教育経済学とは、教育の需要や教育の資金調達と提供、教育プログラムと政策の効率比較など、教育に関連する経済課題を背景とし、労働市場におけるリカレント教育、教育産業の効率、経済成長に対する教育効果、教育財政などなど…幅広いトピックを網羅した経済学のサブフィールドです。一口に「教育」と言ってもそのレベルは様々で、乳幼児教育から大学教育、トレーニングや生涯学習まであらゆる教育的事象が含まれており、事実上教育との関連性を持つすべての分野をカバーしています。日本では1990年代から開拓されてきましたが、1776年にアダム・スミスが「人的努力がすべての富の根源にある」と説いたときからその基礎は築かれ、欧米諸国を中心にすでに大規模研究が進んでいます。

**時代の変化は急速で、激しさは増すばかり
もはや教育は年齢、立場に関係なく、
社会に適応するために必要不可欠な投資です。
そんな新時代を切り拓くための専門的知見が
求められる今こそ、大学はリーダーシップをとって
時代の要請に応えていくのです。**

2021年度開設予定科目一覧

1年次	2年次
・経済学特論　・経済学特論演習 ・教育経済学特論Ⅰ ・社会科学研究方法論 ・測定と定量的方法論 ・ソーシャルデータ分析（乳幼児教育）特論Ⅰ ・ソーシャルデータ分析（学校教育）特論Ⅰ ・ソーシャルデータ分析（組織マネジメント）特論Ⅰ ・課題研究Ⅰ　・研究倫理の理解	・教育経済学特論Ⅱ ・教育における経済問題の分析Ⅰ ・教育における経済問題の分析Ⅱ ・ソーシャルデータ分析（乳幼児教育）特論Ⅱ ・ソーシャルデータ分析（学校教育）特論Ⅱ ・ソーシャルデータ分析（組織マネジメント）特論Ⅱ ・課題研究Ⅱ

こちらが新領域の開設予定科目ですが、講義内容の例としてひとつ有名な研究をあげるならば、2000年にノーベル経済学賞を受賞したシカゴ大学の労働経済学者、ジェームズ・J・ヘックマン(James Joseph Heckman)教授が関与した「ペリー就学前教育プロジェクト(Perry Preschool Study)」でしょう。教授は、質の高い教育プログラムを行った未就学児が40歳になったときにインタビュー調査を行い「高校を卒業する可能性、収入を得る可能性、そして大学に進学する可能性が高く、また犯罪を犯す可能性がはるかに低い」ことを発見し、「犯罪の減少等により、投資された1ドルごとに7ドル～12ドルの効果がある」と推定しています。現代の人的資本理論が示唆するように、教育経済学の主要研究分野は、学校教育と個人の成果、特に労働市場における成果との関連です。教育は、個人投資による生涯の変形資産として、労働市場において富への手段であると捉えられるのです。

大学院教育経済学領域・新任教員紹介

准教授 趙 彩尹（CHO Chae Yoon）
ソーシャルデータ分析（組織マネジメント）特論／研究倫理の理解

准教授 金 珉智（KIM Min Ji）
社会科学研究方法論／測定と定量的方法論

■行事記録（2020年7月～11月）

7月	世界の厨房から（中止）
	下関くじらサマースクール（中止）
8月	オープンキャンパス（中止）web動画にて実施
19日	春学期定期試験（～26日）
27日	夏季休業（～9月27日）
9月10日	大学コンソーシアム関門（中止）
	保護者懇談会（中止）
	防災訓練（中止）
18日	秋学期履修登録開始
28日	秋学期授業開始
	ミニオープンキャンパス（中止）web動画にて実施
	春学期卒業式（中止）
10月4日	大学院入試
9日	地域共創（産官学）研究報告会
	大学祭（中止）
14日	公開講座・オンライン開催
	（インフォーマルグループと経営）
19日	学生健康診断（～26日）（土・日・21日を除く）
21日	履修登録取消期間（～27日）
22日	公開講座・オンライン開催（シニアのための英語講座）
	大学院中間発表会
26日	後期授業料納入期限
28日	学内合同業界研究会（～11月2日）
11月	下関市立大学弁論大会
	日本語スピーチコンテスト（中止）
	下関市立大学弁論大会
	中国語スピーチコンテスト（中止）
	赤間関公開講座（中止）
18日	公開講座・オンライン開催（人と野生動物の社会学）
28日	学校推薦型選抜・特別選抜（社会人・帰国子女）・
	第3年次編入学試験

■ご寄付・ご寄贈ありがとうございます

コロナ禍において、皆様よりご寄付・ご寄贈いただきました。

株式会社パネックス下関工場様

山の田地区まちづくり協議会様

フードテック株式会社様

佐々木 幸則様（前事務局長）

下関市立大学同窓会様

ほかに、幡生宮の下町自治会様からもご寄付いただきました。

自著を語る① 連載企画

地域メンテナンス論

不確実な時代のコミュニティ現場からの動き

教授　竹内　裕二

2018年2月に「地域メンテナンス論」（晃洋書房）を出版しました。本書は、これまで行政頼りだった“まちづくり”に焦点を当て、「自分たちのまちは、自分たちで手入れ（メンテナンス）をしていこう」ということについて学術的な目的をもって執筆した本です。現実問題として、“まちづくり”は終わりなき活動だと思っている人が多く、一般的に継続性に乏しい活動になっています。今後の日本社会を見据えて考えれば、行政に頼ることもできない時代に入っている以上、市民が“まちづくり”へ参加することは必要不可欠です。著者は、“まちづくり”のゴールはどこなのか、継続した活動をするためのヒントとは何かについて、自身の15年以上（現在進行形）に渡っての実践的社会実験を基に“まちづくり”の成長と組織運営のあり方について問い直しています。今後は、「新しい生活様式」を取り入れた“まちづくり”が形成されるため「新しい活動様式」について考えてみたいと思います。

自著を語る② 連載企画

日本企業のコーポレート・ガバナンス

エージェンシー問題の克服と企業価値向上

教授　森　祐司

本書は2020年3月に出版されました。出版から遡ること2年ほど前から、一橋大学大学院経営管理研究科の研究者を中心に全国から20名の研究者が集結し、わが国の企業、金融機関のコーポレートガバナンスについて、多面的かつ詳細に議論・検討し、実証分析した成果をまとめたものです。

同書は、「コーポレート・ガバナンス改革」の概要とその成果に関する最新の学術的な知見の提供を目的に出版されました。加えて、学生や社会人でも理解しやすいように工夫しています。根底にある基礎理論を一通り網羅した序章を設け、各論を扱う章では構成を統一し、「基本コンセプト」と「研究フロンティア」を用意しています。「基本」では、制度的背景、基礎理論、先行研究の概観などを解説し、横断的に読み進めることでコーポレート・ガバナンス論の教科書として活用できます。「研究」では、各分野の専門家による最新研究の一端を紹介し、学術的な関心と今後の研究課題は何かも提示しています。

○ご意見・ご感想をお持ちの方は、アンケートにご協力をお願いします。今後の広報活動に役立てるよう努力いたします。以下のQRコードを読み取ってからアンケートにお答えください。

https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/form/koho_mail.php